

“テレビ会議、別の Web 会議を利用していましたが口コミで WebEx を知り、10 月にトライアル、12 月には WebEx に移行しました。”

— 株式会社インターネット総合研究所 ディペンダブル・ネットワーク研究所 主席研究員 長迫勇樹



試用から2ヶ月後にWebExに移行 国内外の研究機関と頻繁で効果的なアップデートが 可能に

業界

IP (インターネット・プロトコル) ネットワークの構築・運用技術を産業分野へ広く適応させ、理想的なネットワーク社会を創造するための研究開発 (R&D)

Cisco WebEx サービス

Cisco WebEx Meeting Center

まとめ

株式会社インターネット総合研究所は IP 技術をコアコンピタンスとし、新技術の研究開発を行なっている。外部研究機関、大学等との研究過程においてテレビ会議、Web 会議システムを相次いで導入、遠隔地との共同研究に使用していたが、システムの安定性、機能面において要望を満たしておらず、新たなシステムを模索していた。口コミで WebEx を知り、10 月にトライアル、2 ヶ月後の 12 月には WebEx に移行した。

国内外の研究機関とのミーティング、研究報告で活用、コスト・時間削減やコミュニケーションの向上など高い効果を上げている。

株式会社インターネット総合研究所について

- ・ 本社所在地: 東京都新宿区西新宿 1-26-2 新宿野村ビル 11F
- ・ 従業員数: 26 名 (2009 年 6 月末現在 ※契約社員を含む)
- ・ WebEx 導入: 2008 年 12 月

導入前の課題

要望に満たなかったテレビ会議と Web 会議システム

株式会社インターネット総合研究所は 1996 年の設立より “Everything on IP! & IP on Everything!” をスローガンに、IP (Internet Protocol) を今日最も重要な技術的かつ社会的テーマとしてとらえ、IP 技術を通じて社会に貢献できる「常に革新的な企業」を目指している。

ディペンダブル・ネットワーク研究所 主席研究員の長迫勇樹氏は光通信量子暗号 (Y-00) の研究に日々取り組んでいる。その過程において大学の研究機関等外部との共同研究は必要不可欠であり、限られた時間で出来るだけ多くのコミュニケーションを実現するため、WebEx 導入 1 年前には別の Web 会議システムを利用していた。

「テレビ会議システムは画面と音声のみの共有で、プレゼンの機能が充実していなかったのが難点でした。その後 Web 会議システムに切り替えて、プレゼンの機能はテレビ会議より充実していましたが、システムの安定性に欠け、アプリケーションや単体のウィンドウのみを共有したい場合もその機能がなく、デスクトップにあるもの全てが見えてしまう点が使いづらかったです。またスケジュール機能が充実しておらず、定期的な会議設定ができなかったというのもネックになっていました。」と長迫氏は指摘する。

より安定して使いやすいシステムを探していたところ、昔の同僚からアメリカでシェアが高い WebEx のことを聞いたのがきっかけだったと言う。

「10月にトライアルをして12月には WebEx に切り替えましたね。」(長迫氏)

スピード導入の決め手は何だったのだろうか。

導入後の結果

周囲に薦められる WebEx で国内外の研究機関と効果的なミーティング

「まずシステムが非常に安定していたことです。またアプリケーション機能でアプリケーションのみ、単体のウィンドウのみを表示出来る点も希望をクリアしていました。同じ条件で比較するとコストが安かったというのも大きなポイントでしたね。」と長迫氏は語る。

「今では積極的に関係者に WebEx を紹介しています。移動の時間が勿体ない、また移動出来ない人に出来るだけ使ってもらいたいと願っているんですよ。」と長迫氏は続ける。

現在は主に秋田大学、東京大学大学院数理科学研究科在籍の院生と3者間で続けている共同研究の週1回の研究進捗報告に使用している。

「東大の共同研究者が研究途中で秋田大学に赴任されて、東京までなかなか来られなくなったので秋田大の研究室と東大とインターネット総合研究所の新宿オフィスをつないでいます。」(長迫氏)

毎週木曜の午前中、発表担当をその都度変えて経過報告を行なっている。資料を WebEx で共有し、ポインタ機能を使いながら講義をするのが基本スタイルである。30分発表15分質問を2セッション、毎回実施している。

“専門的な観点からもWeb会議は電話と同じような大きな可能性があるツールだと考えています。問題は使う側の意識です。”

—株式会社インターネット総合研究所 ディメンダブル・ネットワーク研究所 主席研究員
長迫勇樹



「正直最初は若干反対意見もあったんですよ。黒板に慣れている先生方からは Web 会議で出来るのか?!と。」と苦笑しながら長迫氏は当時を振り返る。

しかしポインタ機能を活用し、黒板に順ずる手段として確立することが出来たという。

また研究以外の事務連絡、不定期には台湾の大学や愛知の大学とも研究のアップデートを行なっている。

「海外の大学となると更に出張費も捻出が難しいので格好の手段となりました。電話では複数接続は出来てもポインタを使ってプレゼン資料を見せながらといったことが出来ないのが非常に助かりました。また良かったのは台湾の研究室の風景をカメラで映してもらうことで現場にいった気分になれることですね。プレゼン以外の情報の共有も出来るとコミュニケーションの質もあがりますね。」

導入後の効果

無駄な移動時間とコストを劇的に削減

「秋田から東京に出張する場合は単純に交通費・宿泊費等で5万円。更に移動場所によっては丸1日拘束することになる訳で、そういった時間・経費が劇的に減りました。」と長迫氏は強調する。

また千葉の自宅から共同研究先の玉川大学への移動は往復6時間以上かかっていたが、実際のミーティングは2時間程度。そこでも多くをWebExに置き換えることで効率化を実現した。

「2時間のミーティングの為に毎回6時間もかけるのは大きな負担でした。勿論直接対面しなくてはいけないミーティングが無くなることはありませんが、トータルで回数を減らすことは十分できるわけです。使い分けですね。」

秋田大学の先生とも2ヶ月に3回程は東京に来て頂き、その他のアップデートをWebExで行なっている。ひと月20万かかっていた経費もWebExのサービス料のみに抑えることが出来た。

今後の展開

専門委員として全国へのIP新技術普及活動にも活用

「今までWebExやWeb会議システムに馴染みが無かった方々にもどんどん薦めていきたいと思っています。仕事柄こういった技術をウォッチして

いますが、格段にユーザーフレンドリーになり、敷居が低くなってきていると実感しています。また東京近辺では常に様々な新しい情報提供、意識共有の機会がありますが、地方ではなかなか難しいのが現状です。遠方への講演会も企画しています。」と長迫氏は今後の展望を語る。

氏は先進的なセキュリティ技術を普及しようという日本ネットワーク安全協会(JNSA)の専門委員も兼任しており、1つのソリューションとしてWebExを使い全国への講演、普及活動を行なっていきたいという。

またインターネットの専門家としてWeb会議市場そのものについて次のような将来的観測も熱く語った。

「問題は使う側の意識の方だと思っています。電話が普及して100年余、初めは「信じない」「会わないとダメだ」といった拒絶反応が大多数だったはず。しかし今では当たり前にならなくてはならないツールで、Web会議についてはそれと似たような歴史を辿るのではと感じています。現場に行かなくてもプレゼンが出来る、信頼関係を構築するには非常に有効なツールと認識されていくと思います。」